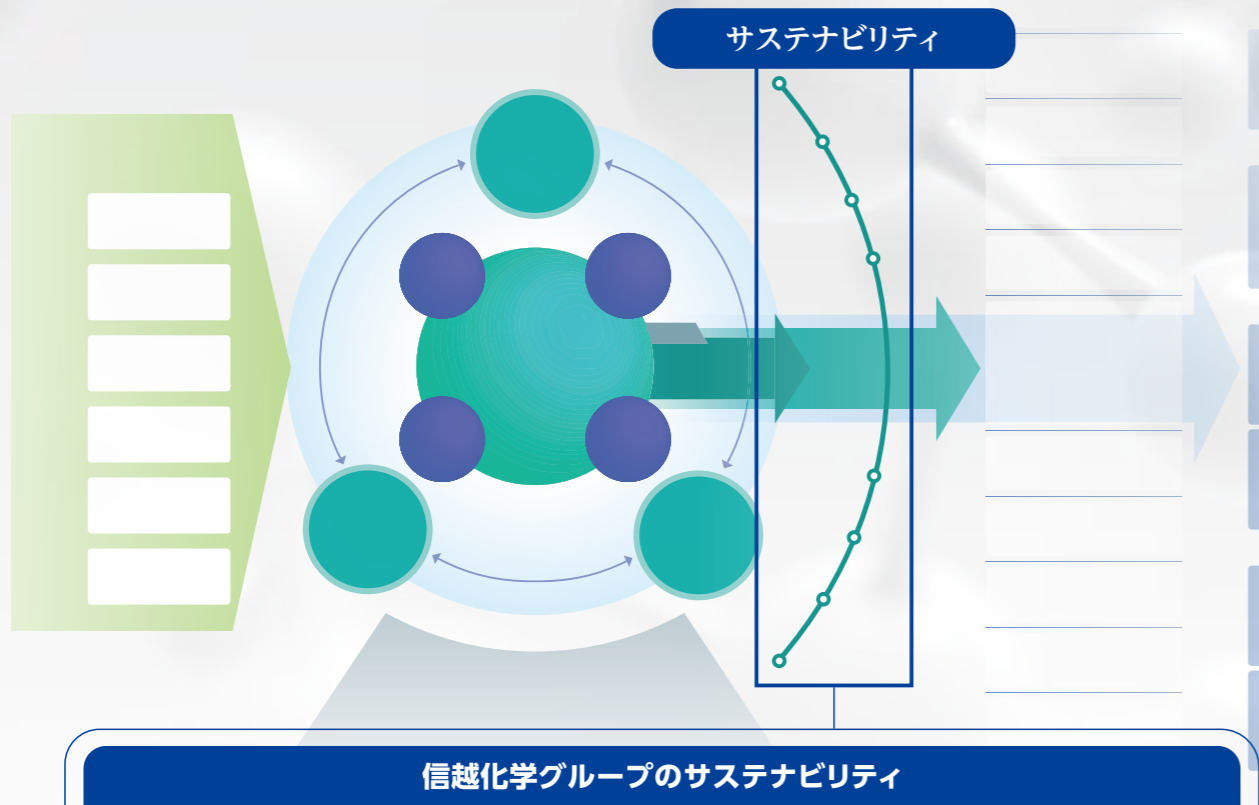


# 持続可能な社会の実現と 企業の持続的な成長を両立



信越化学グループが目指すもの

地球の未来への貢献

信越化学グループの使命

社会課題の解決に資する製品の提供

## 企業規範

遵法に徹して公正に企業活動を行い、素材と技術によって他の追随できない価値を社会と産業のために生み出す

## サステナビリティの基本方針

### 活動の基盤

- |                       |                       |                             |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 法令遵守、<br>公正な企業活動      | 働く人の安全の確保と<br>健康の促進   | 省エネルギー、省資源、<br>環境負荷の低減      |
| 製品の品質の向上、<br>製品の安全性管理 | CSR調達の推進、<br>原料調達の多様化 | 人間尊重、<br>人材育成、多様性の推進        |
| 社会貢献活動                | 知的財産の尊重と保護            | 適時、的確な情報開示、<br>ステークホルダーとの対話 |

## サステナビリティの取り組み

当社グループの社会的責任は企業規範を実践し、株主、投資家、お客さま、お取引先、地域社会、従業員といった全てのステークホルダーに貢献することと考えています。その実現のためにサステナビリティの基本方針と各種社内規程を定め、活動を行っています。企業活動のあらゆる面において、サステ

ナビリティ活動を推進するために、当社の取締役や執行役員、部門長、グループ会社のサステナビリティ担当者など約60名からなるサステナビリティ委員会を組織し、社長が委員長を務めています。

### サステナビリティの基本方針

信越化学グループは、

- 1 持続的な成長により企業価値を高め、多面的な社会貢献を行います。
- 2 安全を常に最優先とする企業活動を行います。
- 3 温室効果ガス排出量削減に貢献する事業を拡充します。
- 4 製品の開発、製造時での効率を極め、その製品供給により社会の効率化に貢献します。
- 5 生物多様性に配慮し地球環境との調和を図りながら事業活動に取り組みます。
- 6 人権の尊重と雇用における機会の均等を図り、働く人の自己実現を支援していきます。
- 7 適時そして的確な情報開示を行います。
- 8 倫理に基づいた健全で信頼される、透明性ある企業活動を行います。

## サステナビリティの取り組み状況

### 信越化学グループが取り組む重点施策

サステナビリティ委員会では、当社グループが取り組むべき重点施策として右に掲げる3点を取り上げ、サステナビリティ活動を強化しています。

#### 重点 施策

- 1 人権デューデリジェンス
- 2 TCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosure) への対応
- 3 SDGsと経営の統合

### 重点施策の取り組み状況

2021年度に挙げたサステナビリティの課題への取り組み内容と、2022年度の活動予定は以下のとおりです。

重点施策	2021年度の進捗	2022年度の活動予定
人権デューデリジェンス P21参照	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権リスク調査の結果から、優先して取り組む人権リスクを特定</li> <li>サプライチェーン上の人権リスク調査を開始</li> <li>苦情処理システムの構築を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーン上の人権リスク調査の実施(継続)</li> <li>人権啓発、教育プログラムの構築</li> </ul>
TCFDへの対応 P24参照	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の事業を対象に、気候変動シナリオ分析を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラルのための具体策の検討</li> </ul>
SDGsと経営の統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年度経営目標で「SDGsに貢献」を掲げ、社内浸透を推進</li> <li>SDGsに関するグループ内の理解を深めるため、社報でSDGsに関する記事を連載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの課題解決に貢献する製品の開発と供給</li> </ul>

### SDGsと経営の統合

当社グループが提供している多様な製品は、国連が掲げるSDGsの達成にも貢献していることから、2021年度も引き続きSDGsの社内浸透を推進しました。2021年度においては、

当社の投資案件の98.9%がSDGsに貢献する内容でした。また、省エネルギーやCO<sub>2</sub>削減への投資も15.5億円に達し、温室効果ガス5,107CO<sub>2</sub>-トン削減の効果を上げています。

## 重要課題(マテリアリティ)の特定

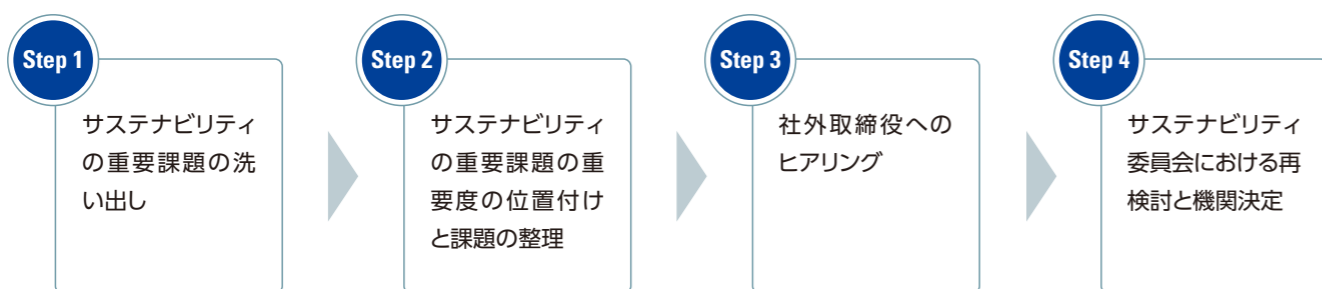
サステナビリティ委員会は2015年度に、当社グループが特に注力すべき取り組みを「サステナビリティの重要課題」として決めました。

具体的には、①各部門、各社におけるステークホルダーを再確認し整理する。②ISO26000の中核主題を参考に、各部門、各社でサステナビリティの重要課題を挙げる。③各重要課題に対する当社グループにとっての重要度およびステークホルダーにとっての重要度を、それぞれ点数化する。これら3つの手順で重要課題の洗い出しを行った上で、当社グループにとっての重要度とステークホルダーにとっての重要度の二軸で整理しま

した。さらに社外取締役の意見と指摘を踏まえ、サステナビリティ委員会で再検討し、業務執行の決定機関である常務委員会の審議を経て9つの重要課題を特定しました。

その後、2018年12月には、当社の全部門および国内の主要グループ会社において、重要課題と重要性について見直しを実施して、その内容についてサステナビリティ委員会で再検討しました。その結果、2015年に特定した重要課題を継承することとし、現在も全ての活動の礎である「法令遵守、公正な企業活動」をはじめとした9つの重要課題を特に注力すべき取り組みとしています。

### マテリアリティの特定プロセス



## サステナビリティを担当する役員一覧

役名	氏名	担当職務(サステナビリティ関連のみ)	関係するサステナビリティの重要課題など
代表取締役副会長	秋谷 文男	技術関係担当	製品の品質の向上、製品の安全性管理
代表取締役社長	斉藤 恭彦	サステナビリティ委員会委員長	
常務執行役員	秋本 俊哉	サステナビリティ委員会副委員長 広報、法務関係担当 デジタル推進室長 リスクマネジメント委員会委員長	全ての活動の礎:法令遵守、公正な企業活動 知的財産の尊重と保護 適時、的確な情報開示、ステークホルダーとの対話 リスク管理
常務執行役員	荒井 文男	資材関係担当	CSR調達の推進、原料調達の多様化
常務執行役員	松井 幸博	特許関係担当	知的財産の尊重と保護
常務執行役員	宮島 正紀	業務監査関係担当	コーポレートガバナンス
執行役員	笠原 俊幸	経理部長、社長室関係担当	コーポレートガバナンス(適正な納税、グループ会社の管理)
執行役員	高橋 義光	総務、環境保安、人事関係担当	コーポレートガバナンス 働く人の安全の確保と健康の促進 省エネルギー、省資源、環境負荷の低減 人間尊重、人材育成、多様性の推進

## 重要課題のリスクと機会

重要課題	リスクと機会(代表例)	課題に対する取り組み
全ての活動の礎 法令遵守、公正な企業活動	リスク 法令違反や不正の発生、社会からの信頼の喪失による企業価値の毀損 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修などを通じたコンプライアンス意識の向上</li> <li>贈収賄防止策の徹底 など</li> </ul>
	機会 企業価値の礎の形成、リスクの排除、顧客からの信頼醸成と商機の拡大、優秀な人材の採用と定着 など	
E 省エネルギー、省資源、環境負荷の低減	リスク 温室効果ガスに関する規制の強化、原料の価格上昇や調達困難 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷低減の促進、気候変動への対応</li> <li>水資源の保全</li> <li>廃棄物削減 など</li> </ul>
	機会 環境負荷低減と生産性向上による競争力強化や環境に貢献する製品の需要の拡大 など	
働く人の安全の確保と健康の促進	リスク 事故、環境問題が地域社会と従業員に与える影響や自然災害による設備の損害、感染症の流行に伴う操業への影響 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全教育の実施</li> <li>環境保安監査の実施</li> <li>職場環境の改善 など</li> </ul>
	機会 事故の未然防止と新しいプロセス開発による安定生産と生産性向上 など	
製品の品質の向上、製品の安全性管理	リスク 製品の品質・安全性の問題による信頼喪失 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質管理</li> <li>品質監査、支援</li> <li>製品の安全性管理 など</li> </ul>
	機会 約束した品質の製品を期日どおりに納入し続けることで醸成される顧客からの信頼 など	
CSR調達の推進、原料調達の多様化	リスク 原材料の調達困難による製造停止や出荷への影響 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>「信越化学グループCSR調達ガイドライン」の改訂</li> <li>下請法の遵守</li> <li>紛争鉱物排除の取り組み など</li> </ul>
	機会 調達先の多様化による最適価格でかつ安定した原材料等の調達や、CSR調達の徹底による顧客と社会からの信用の獲得 など	
S 人間尊重、人材育成、多様性の推進	リスク 自社の事業活動やサプライチェーンにおける人権侵害の発生 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員の人権意識の醸成</li> <li>多様性の促進</li> <li>ワークライフバランス制度の充実</li> <li>人権デューデリジェンスの実施 など</li> </ul>
	機会 人権尊重を基本とする事業活動による、優秀な人材の採用と安定雇用 など	
知的財産の尊重と保護	リスク 知的財産の侵害による製品販売の停滞 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産、情報資産の適切な管理</li> <li>サイバーセキュリティの強化 など</li> </ul>
	機会 知的財産の保護と活用による独自開発の促進 など	
社会貢献活動	リスク 企業活動の内容が社会のニーズと合致しないことによる信頼の喪失 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>募金活動</li> <li>地域貢献活動 など</li> </ul>
	機会 事業の安定による雇用促進と納税、地域社会との信頼関係の醸成 など	
適時、的確な情報開示、ステークホルダーとの対話	リスク 情報の非開示や不十分な開示による企業価値の毀損、ステークホルダーからの信用の喪失 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>適時、的確な会社情報の開示</li> <li>ステークホルダーとの対話の推進 など</li> </ul>
	機会 適正な市場評価の形成、企業価値向上、ステークホルダーと社会からの信頼の獲得 など	

より詳細な取り組みはサステナビリティサイトをご覧ください  
<https://www.shinetsu.co.jp/jp/sustainability/>